



特集 多様な学びで地域の可能性を創造する

地域デザインコース P1



研究室へようこそ P4 大学院社会産業理工学研究所 准教授 鬼塚 正義

最先端研究探訪 P5 大学院医歯薬学研究所 准教授 田中 直伸

魅力ある授業 P7 大学院医歯薬学研究所 教授 山本 朗仁

My Campus Life P8

医学部 医学科 2年 角 優花

生物資源産業学部 生物資源産業学科 3年 荒木 鉄平

サークル紹介 P9

放送研究会メガフェス / 卓球部 / 地域実践研究会NOROSHI / 男子ラクロス部

My Life in Tokushima P11

薬学部 薬学科 5年 Benjamin Tam Chee Keen

先輩に続け P12 厚生労働省医政局歯科保健課 奥田 章子

ギャラリー新蔵 / 徳大ニュース P13

徳島大学基金 / 編集後記

徳島大学基金

皆さまには、平素から徳島大学の教育、研究、社会との共創活動に対しまして様々なご支援・ご理解を賜り、誠にありがとうございます。

徳島大学は、未来を見据え、現在までに培ってきた知と人の財産を継承し、新しい時代と社会の課題に応える教育・研究の充実を図ってまいります。徳島大学が将来にわたり「人、地域をはぐみ未来をつくる」活動を精進していくには、長期的に安定した財政基盤の強化、基金の充実が不可欠です。教職員はもとより、卒業生、学生のご家族をはじめ、個人、企業、団体などの皆さまにおかれましては、温かいご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

徳島大学基金の取組

① 徳島大学病院ゆめtoみらい基金

本基金は県内唯一の特定機能病院として、地域の中核医療機関を担う徳島大学病院が、次世代に向けた医療・研究・教育環境を整備し、地域社会及び世界に貢献し続けることを目的に設立されました。徳島大学病院が目指しているのは、単なる施設の建て替えではなく、世界標準の診療・研究・教育拠点として進化し、誰もが安心して訪れることのできる病院となり、次の世代に誇りを持って引き継げる財産を築くことです。ぜひ、本基金の趣旨にご理解とご賛同いただき、ご寄付を賜りますようお願い申し上げます。



詳細はこちら

② TOKUSHIMA UNIVERSITY GIVING CAMPAIGN 2025 たくさんのご参加ありがとうございました

2025年10月10日から19日まで開催いたしましたオンラインチャリティーイベント「TOKUSHIMA UNIVERSITY GIVING CAMPAIGN 2025」につきまして、たくさんのご参加誠にありがとうございました。参加した51団体にに対し、昨年を大きく上回る14,439名の方々から応援、ご支援を賜りました。また、多くの温かなメッセージもいただきましたこと、改めて厚く御礼申し上げます。



詳細はこちら

ご寄付をいただいた皆さま (五十音順) 2025年7月から9月までの間に、徳島大学基金にご寄付いただいた皆さまのご芳名を紹介させていただきます。ご支援、誠にありがとうございました。

- | | | | | | |
|-----------------|----------------------|---------|---------|---------|---|
| 秋山 恵里 様 | 秋山 佳輝 様 | 市川 陽子 様 | 井上 秀夫 様 | 今枝 正夫 様 | 徳島大学では、学生や研究者の活動が充実していきよう引き続き寄り添い支援してまいります。今後も、徳島大学の取組及び徳島大学基金の充実にご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。 |
| 医療法人岩河会岩河整形外科 様 | 大西 峯子 様 | 沖田 誠 様 | 尾花 敬治 様 | 紀井 隆志 様 | |
| 門田 京子 様 | 鎌田 喜代志 様 | 河田 純 様 | 紀井 隆志 様 | 左海 義文 様 | |
| 木戸 優宏 様 | 河野 敏隆 様 | 酒井 智規 様 | 左海 義文 様 | 島 正幸 様 | |
| 実松 泰三 様 | 三和プラントエンジニアリング株式会社 様 | 鳥 敬 様 | 島 正幸 様 | 谷崎 憲佑 様 | |
| 杉森 定男 様 | 武正 敏男 様 | 多田 隆司 様 | 多田 隆司 様 | 鶴井 利次 様 | |
| 種池 昌彦 様 | 津川 咲子 様 | 筑波 理絵 様 | 筑波 理絵 様 | 中島 千春 様 | |
| 時任 麗 様 | 株式会社友居工業友居京太郎 様 | 中尾 宏 様 | 中尾 宏 様 | 野村 泰隆 様 | |
| 長田 正 様 | 医療法人西歯科医院 様 | 西谷 桂子 様 | 西谷 桂子 様 | 板東 貴典 様 | |
| 秦 弘熙 様 | 林 勲男 様 | 板東 沙紀 様 | 板東 沙紀 様 | 宮内 圭二 様 | |
| 福永 ヒロミ 様 | 前田 勇一郎 様 | 三島 洋治 様 | 三島 洋治 様 | 山田 千晶 様 | |
| 三好 俊章 様 | 山口 勝己 様 | 山田 航輝 様 | 山田 航輝 様 | 依田 礼子 様 | |
| 山本 早苗 様 | 吉田 哲司 様 | 吉野 和嗣 様 | 吉野 和嗣 様 | | |



【お問合せ先】徳島大学経営企画部 大学経営企画課 未来創造室 Tel: 088-656-9979 E-Mail: dosokikink@tokushima-u.ac.jp

編集後記 バイオイノベーション研究所 産業生物系部門 講師 渡邊 崇人

今号の特集は、2024年に新設された総合科学部の「地域デザインコース」について、その魅力とともに紹介しました。その大きな特徴として、法律学や政治学から情報科学やメディアアートなど幅広い分野を自由に学べる点が挙げられます。地域・社会の課題に対して的確にアプローチし、その解決策を提案していくことは、大学が存在する「徳島」という地域にとって大変重要であり、同様の課題を持つ他の地域にとっても大きな意味を持つことになるでしょう。私自身、徳島で生まれ育ち41年間徳島県で住んでいますが、様々な課題を目の当たりにしてきました。徳島の魅力を向上させ、未来の地域社会をデザインできる人材の育成に、大きく期待をしているところです。今号で取り上げられた学生のインタビュー記事が「とくだいウェブ」でも紹介されますので、是非ご覧ください。

徳大広報とtalk No.202をお読みいただきありがとうございます。

ご意見ご感想は下記にお寄せください。

発行: 国立大学法人徳島大学法人運営部総務課広報室

〒770-8501 徳島市新蔵町2-24

Tel: 088-656-7646 E-mail: koho@tokushima-u.ac.jp

URL: https://www.tokushima-u.ac.jp/about/publicity/toku_talk

発行日: 2026年1月 本誌は年4回(4月、7月、10月、1月)発行



アンケートはこちら



とくとくtalk
バックナンバー



ミックス
紙 | 責任ある森林
管理を支えています
FSC® C126198



基金プロジェクト
サイトはこちら



多様な学問分野と充実のフィールドワーク

私が地域デザインコースを選んだ理由

2024年4月に総合科学部に新設された「地域デザインコース」。

このコースを選択した学生3人に、これから学びたいことや将来の夢について話を聞きました。

※3人のインタビュー記事は、「とくたいウェブ」でも紹介します。

総合科学部 社会総合科学科 地域デザインコース 2年 佐藤 理紗さん (さとうりさ)

徳島県出身の佐藤さんは、幼い頃から「阿波おどりこども大使」などの地域PR活動に積極的に参加し、郷土愛を育んできました。地域デザインコースを選んだ理由も、地元徳島への思いと、地方創生への探究心から。「入学前は地方創生、地域づくりというと、“イベントを開催して地域を盛り上げる”というようなイメージでしたが、授業を通して地域づくりの本質に触れ、視野が大きく広がりました。いろいろな分野に触れるうちに興味の幅がどんどん広がって、ゼミ選択も迷っているところ」と、学ぶ意欲と充実感を語ります。現在は特産品「徳島すだち」の消費拡大や需要促進のためのPR活動「徳島すだち大使」を務め、県内外で活躍。将来も徳島と関わる仕事に就きたいと考えています。



総合科学部 社会総合科学科 地域デザインコース希望 1年 中脇 叶波さん (なかわきとわ)

中脇さんは高知県出身。高校時代はAIに関心があったそうですが、様々な地域課題を目にするなかでまちづくりへの思いが強まり、地域デザインコースへの進学を決意。「歴史や語学など、幅広く学べる点が魅力」と、これから様々なことを学び、吸収したいと話します。この夏は自治体や企業と協働し、課題解決に取り組む実践型インターンシップにも参加。その一環として徳島県吉野川市のサイクルツーリズムやヒルクライムレースにも挑戦し、自転車だからこそ気づくことができる地域の魅力を発見できたといいます。中脇さんが理想とするまちづくりのイメージは「よさこい」。将来は祭りを通して人と人がつながり、交流し、地域を盛り上げるような活動に貢献したいと話しました。



総合科学部 社会総合科学科 地域デザインコース 2年 浅野 蘭さん (あさのらん)

徳島県海陽町に祖父母の家がある浅野さん。幼い頃から農作業を手伝ったり、地元の人たちと語り合う時間が「非日常でありながら心地よい」と感じていたと振り返ります。電波が届かないといった不便さはあっても、地域の人々が受け継いできた昔ながらの暮らしに魅力を感じ、自分もその営みを守っていききたいという思いから、地域デザインコースを選択。『地域実践研究会 NOROSHI』に所属し、農家支援として茶摘みやゆず収穫の作業に参加するなど、地域との交流を積極的に広げています。また、2025年10月には大阪・関西万博で開催された若者向けプレゼン大会「VISION MASHUP STAGE」に登壇。徳島の魅力発信にも努めています。



薬の製造に関する全体像を把握し、生産方法を設計する バイオ医薬品の生産プラットフォーム開発を目指して

大学院社会産業理工学研究部 生物資源産業学域 応用生命科学分野 准教授 鬼塚 正義 (おにつかまさよし) 研究室



バイオ医薬品とは、微生物や動物細胞を利用して創られる薬で、主に点滴剤・注射剤として用いられています。現在、がんや難治性疾患の治療において注目が高まっています。

鬼塚研究室は、バイオ医薬品の生産性向上と品質管理の両方を研究する国内でも数少ない研究室です。「新しい薬を創ることと、その薬を安定して量産することでは、必要とされる知識や技術が大きく異なる」と語る鬼塚先生。

たとえば抗体医薬品の場合、人工的に設計された抗体は、水に溶けにくい、濁りやすいなどの課題を抱えています。こうした性質は品質の劣化や副作用につながる可能性があるため、研究室では原因となる分子構造を特定し改良するとともに、抗体医薬品の生産細胞の開発、安定生産に必要な細胞培養条件についても検証し、効率的な生産システムの開発も進めます。

鬼塚先生が「何をどう創るか」「プロセスはどうか」「どう改良すればいいか」といった製造に関する全体像の把握を重視し、一連のプラットフォームの研究に注力する背景に、日本のバイオ医薬品参入の遅れがあります。

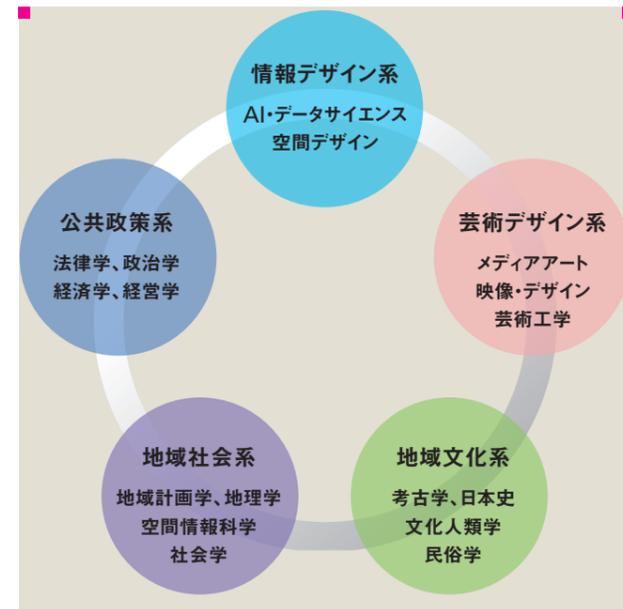
世界の製薬企業がバイオ医薬品へ戦略的に移行するなか、日本は大規模培養設備や製造プロセス技術への投資が遅れ、国内に優れた創業の力があるにもかかわらず、開発した医薬品を商用規模で製造するための生産能力は国際的に見て不足しているといえます。

「国内でバイオ医薬品を安定的に生産できるようになれば、薬価の低減につながり、治療の選択肢も広がります。日本には創業の研究者は多くいますが、生産や品質管理を専門とする研究者は少ないのが現状です。欧米では

大学と企業が連携し、生産技術の知識を体系的に蓄積していますが、日本ではその基盤が十分とはいえず、人材育成が急務だといえます」と鬼塚先生は指摘します。鬼塚研究室ではエンジニアリング企業や分析機器メーカーなどの共同研究を積極的に進め、企業が抱える実際の問題点とアカデミアの知見を結びつけることで、生産技術の高度化に寄与したいと考えています。こうしたことから共同研究先の企業関係者が訪れる機会が多く、社会人博士課程の学生やスタッフも比較的多いため、研究室は社会で働く環境に近い雰囲気。興味のある人はぜひ、研究室を訪ねてみてください。



現在、バイオ医薬品の一大拠点は韓国。それを手掛けているのは、あの「サムスン電子」。世界の製薬会社はバイオ医薬品が業界のトレンドになると予測し、ある会社がハムスターの細胞を使って初めてプロトタイプのバイオ医薬品を創ったことで、現在も抗体医薬の製造にはハムスターの細胞を使うのが一般化しているそうです。



Features 地域デザインコース 3つの特徴

Features | 1
地域・社会課題に対し
的確かつ創造的に解決方法を提案・実践する

最新のデータサイエンスやAIの知識を基盤に社会の現状を的確に理解し、社会の課題を紐解き多様な学びを統合して地域づくり・政策を推進します。

Features | 2
多様な学びを結集した
実践知を身につけることで次の未来をつくる

情報分析・サービス開発の研究から、芸術・デザイン、考古学・歴史・文化人類学、社会学、公共政策まで幅広い分野の研究を展開。

Features | 3
世界の多様な地域を学びのフィールドにする

いろいろな場所に掛けて学ぶのがこのコースの特徴! 地域デザイン=Regional Designなので徳島のみならず多様な地域を対象に実地で実践を進めています! いろいろ学ぶ=たくさんの引き出しで色々と提案したり課題解決の実践ができる!

地域の未来を「デザイン」する 「地域デザインコース」の魅力

「地域デザインコース」は、「地域創生コース」と「公共政策コース」を統合して新たに生まれたコースです。法学・政治学・経済学・経営学といった公共政策系の分野に加え、社会学、文化人類学、地理学、考古学、歴史学、情報科学、映像デザイン、メディアアートなど地域創生に関わる多様な領域を横断的に学べる点が大きな特徴です。

社会学が専門の矢部先生は、このコースの魅力が「多様性」といいます。「価値観が多様化する社会の中で、学生が自分に合った学びを選び取るよう、多面的なカリキュラムを用意している」と語ります。一方、小田切先生は、「グローバルな視点から社会構造を捉えるマクロな学びと、特定地域の課題に踏み込むミクロな学びが有機的に

結びついている」と説明。理論と実践を融合し、未来の地域社会を多角的にデザインできる人材の育成を目指しています。またフィールドワークを重視している点も、地域デザインコースならではの特色です。矢部先生は、SNSデータ分析などのデータサイエンスを取り入れ、世界的な傾向を把握しながら、従来の質的調査(フィールドワーク)では見えにくかった地域の可能性を探る新たな調査手法を構想中で、データ分析と実践を組み合わせ、相互にフィードバックさせる新しい研究スタイルを育てたいとしています。

研究対象となる地域は徳島県内に限らず、日本全国、さらには世界各国にも広がります。就職先としては公務員志望の学生が多いものの、「既存の職業に就くだけでなく、人口縮小社会で地域を活性化できるクリエイティブな人材になってほしい。一つの学問分野に収まりきらない幅広い興味・関心を持つ学生に、このコースは最適! Wゼミも歓迎」というお二人。地域づくりをアカデミアの確かな知見にもとづいて体系的に学べる新コースに大きな期待が寄せられています。



地域社会学研究室 矢部拓也教授(写真左)と公共政策学研究室 小田切康彦准教授。来年度からいよいよゼミがスタートし、地域デザインコースが本格的に動き出します。先生方も「どんな学びが生まれるのかは、学生と動き始めてみないと分からない部分が多い。フィールドワークを軸にした新しい地域デザインのアプローチを、学生とともに育てていきたい」と、2つのコースが融合したからこそ可能になった点に期待を込めて、お話しいただきました。

健康寿命の延伸に寄与する 医薬シード化合物の探索研究

大学院医歯薬学研究部 薬学域 生薬学分野 准教授 田中 直伸 (たなかなおのぶ)

現代社会が求める
「元気に長生き」する成分を
探して

「人生100年時代」と言われる現代では、単に寿命を延ばすだけでなく、健康で自立した生活を続ける「健康寿命」の延伸が重要なテーマとなっています。

この課題に、薬用植物や海洋生物由来成分の研究を通じて挑んでいるのが、田中先生の研究室です。世界各地で民間薬として伝承されてきた薬草や、日本固有の植物、さらには徳島の特産品である阿波晩茶などから、人々の健康に役立つ素材とその成分の探索や、新たな医薬品、機能性食品の元となる「医薬シード化合物」の探索研究を行っています。

世界各地に息づく
独自の薬草文化に注目

田中先生はこれまでモンゴルや中国などで現地調査を行い、その土地に根付く民間薬の研究を行ってきました。中でも力を入れているのが中国西南部に位置する「広西チワン族自治区」での国際共同

研究です。

水墨画で描かれる桂林のような奇岩が連なるこの地域は、特異な石灰岩地帯であり、アルカリ性土壌という過酷な環境に適応した植物が独自の進化を遂げています。植物多様性が極めて豊かな地で、現地の少数民族は古くから独自に薬草を利用してきました。

この研究は、かつての恩師や同門の研究者たちとのつながりから発展したもので、現地の植物研究者との長年の交流を経て、コロナ禍明けに再び現地調査を実施。炎症性疾患に使われる現地の薬草から、脳の神経炎症を抑制する可能性のある成分を発見しました。また研究を通して、既知の成分でもこれまで知られていなかった効果を見つけることも。

その一例が、モンゴルで「チャイガ」と呼ばれるキノコに関する研究です。

モンゴルでは古くから毛染めや洗髪などに利用されてきたことに着目し、含有成分を詳しく調べたところ、教科書にも登場するような基礎的な化合物の中に、育毛剤として働く可能性のある成分が含まれていることを

突き止めました。

研究を進めた結果、その化合物には毛乳頭細胞を増殖させる活性(育毛効果)があることが明らかに。「チャイガ」を使った育毛剤が共同研究企業から上市されました。

日本の植物から発見！
「トリアデノシド」と
抗フェロトローシス活性

海外の植物だけでなく、日本の植物からも重要な発見が生まれています。

北海道で採取したオトギリソウ科植物「ミズオトギリ」(Tritemum japonicum)の成分探索において、新規化合物を発見。植物の学名にちなみ「トリアデノシド」(Tritatenoside)と命名したこの成分は、現代医学が注目する新たな細胞死「フェロトローシス」を抑制する活性を持つことが分かりました。

フェロトローシスは、アルツハイマー病やパーキンソン病などの神経変性疾患や、脂肪肝などに関与しているとされる細胞死の一種です。この細胞死を食い止めることは、脳や肝臓の機能

を守り、結果として健康寿命を延ばすことにつながると考えられています。

「単離」へのこだわりと
未知の成分に名前をつける喜び

研究の根底には、中国最古の薬物書『神農本草経』の考えがあります。この書物では、生薬を上品・中品・下品の三つに分類しています。下品は毒性があるものの、病気を治す強い作用を持つ薬(現代の抗がん剤などのイメージ)ですが、上品は「命を養う」薬とされ、長期間服用しても害がなく、体を強くし、不老長寿につながるものとされています。

田中先生が目指すのは、上品に該当する成分の発見です。

昨今の分析技術の進歩により、植物抽出液を機械にかければ、数多くの成分を一齐に分析することが可能になりました。しかし、田中先生の研究室ではあえて手間と時間のかかる「単離」にこだわっています。

単離は、混合物の中から一つの成分だけを純粋な形で取り出す手法です。一斉分析では埋も

れてしまうような微量な成分や、データベースにない未知の成分も、単離して初めてその化学構造を決定し、正確な活性を評価することができるといいます。

者としての大きな喜びです」という田中先生。ミスオトギリから発見した「トリアデノシド」や、徳島県の民間薬ピヨウヤナギに含まれる抗HIV活性物質「ピヨウヤナギン」などは、田中先生が名付けた化合物です。自身が名付けた化合物が世界の科学論文の中で使われ続け、未来の医療や健康科学を支える基盤となることは研究者の醍醐味でもあります。

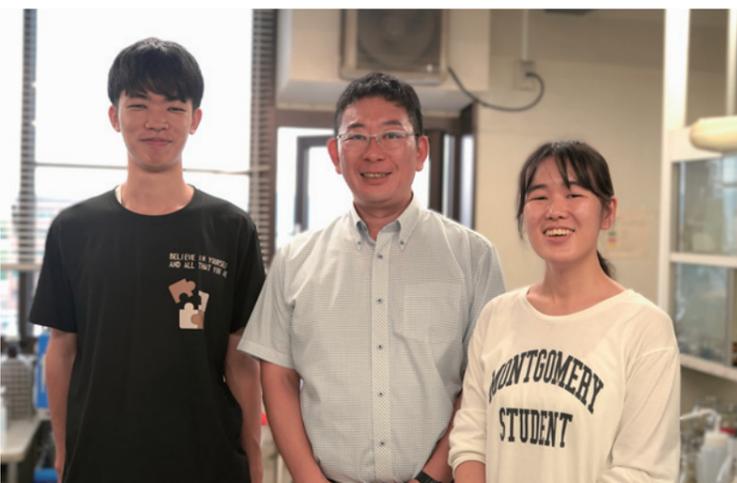
「阿波晩茶」に秘められた
健康パワーを新商品に活用

研究室では、徳島の特産品である「阿波晩茶」も研究対象としています。

徳島県上勝町などで生産される阿波晩茶は、茶葉がしっかりと成長する夏の暑い時期に全て手作業で摘み取りが行われます。作業の中心を担うのは現地の高

齢女性たち。急な斜面をもともせず働く彼女たちの健脚ぶりと元気に、「阿波晩茶には健康効果があるのでは？」という着想から研究を開始。現在、茶葉の製造工程で生じる未利用資源(茶汁)に含まれる有用成分の探索を進め、ヘルスケアに有効な機能性食品の開発を目指し、地域特産品の新たな価値創出にちなげようとしています。

「自然界には私たちの健康を支える未知の成分が数多く眠っています。未知の成分を見つけるワクワクします。一つ一つを丁寧に単離し、その構造と機能を解き明かしていく。その地道で根気強い基礎研究の積み重ねが、やがて「元気に長生きできる社会」の実現につながると期待しています」。



田中先生(写真中央)と研究室の皆さん。



薬学部薬用植物園にて。薬学部及び薬学科学研究科の教育研究に使用する薬用植物園の園長を務めている田中先生(手前の植物がピヨウヤナギ)。約1万平方メートルの敷地内で、約700種の植物を栽培していて、野生ですでに絶滅した「コブシモドキ」など、絶滅危惧種の保護・増殖を行う「種の保存」の役割も担っています。薬用植物園は年に一度、一週間の一般開放を実施しており、例年多くの人々が訪れます。



薬学部生薬標本室にて。研究室では漢方薬の構成生薬の成分再検討にも取り組んでいます。漢方薬は経験的に「効く」ことが分かっていますが、実はどの成分がどう作用しているのか、科学的には未解明な部分が多く残されているのだとか。生薬一つ一つを微量成分まで徹底的に探索し直すことで、漢方の薬効メカニズムを現代科学で説明しようと試みています。



部活や研究に情熱を注ぎ、有意義な学生生活を送っている様子を取材しました。

歳本キャンパス

中高生がヘルスケアの課題に挑むi-GIP四国が再始動！ 糖尿病の課題解決に取り組んだ半年間

医学部 医学科 2年 角 優花 (すみ ゆうか)



四国では11チーム(高校生2~4人に大学生メンバー1~2人が伴走)が約6ヵ月間かけて課題に取り組み、12月14日に大塚講堂で行われた「Inochi Gakusei 糖尿病フォーラム」でそれぞれのアイデアを発表しました。



i-GIP四国HP

中高生が医療やヘルスケアの課題に挑む「i-GIP(アイ・ジップ)」。中高生と大学生が二人三脚で解決策を創出し、社会実装を目指すこのプロジェクトは、関西・関東・北陸・九州・四国の5地域で展開されており、四国では2025年に徳島大学の角さんを代表して迎えて再始動しました。

角さんが並々ならぬ熱意で取り組む背景には、今年のテーマ「糖尿病」への強い関心があります。徳島県は長年、糖尿病による死亡率が全国ワースト1であり、現在も全国平均を上回る状況が続いています。徳島県出身の角さんは「この機会に、四国・徳島から解決策を提案したい」と話します。

とはいえ、専門的な知識を持たない中

高生や大学生に、医療課題の解決ができるのでしょうか？

「糖尿病は人によって症状や悩みが異なります。専門知識がないからこそ、固定観念にとらわれず、一人ひとりの声に耳を傾け、個人の悩みに寄り添った解決策を考えられると思います」。

自身も高校時代にi-GIPへ参加した経験があり、その学びと出会いが今の活動の原点だと振り返ります。「誰かを救いたい」という共通の思いを持ち、年齢や立場を越えて共に学び、支え合う時間は貴重な機会です。そうした体験を多くの中高生や大学生に味わってほしい。今後もこの活動を続けていきたいと思っています」と話してくれました。

常三島キャンパス

四大学合同連へ参加 学生連同士をつなぐを深め 螺旋連を新たなステージへ

生物資源産業学部 生物資源産業学科 3年
荒木 鉄平 (あらかてつぺい)



Instagramアカウント



日本酒サークルあわのん:
@tokushimast.sake

螺旋連:
@rasenren

徳島大学サーフィン部:
@tokudaisurfingclub

大阪・関西万博の会場で徳島学生合同連として踊りを披露。サーフィン部にも所属し、平日は阿波踊り、土日はサーフィンというスケジュール。サーフィン部でも徳島大学杯の大会運営に携わり、他大学との交流を行っています。



今夏まで生物資源産業学部の阿波踊り連「螺旋連(らせんれん)」の連長を務めた荒木さん。出身は大阪で、徳島に来て初めて阿波踊りの魅力に触れ、「踊る人も観る人も一体になれる“全員参加型”の祭りにハマった」と話します。螺旋連は学部の1年生から大学院生まで約75名が所属する大所帯。連長として、「連員全員が楽しめ、居場所となるようなウェルカムな雰囲気を作ろう」と同期の仲間と協力しながら、練習やイベント参加に取り組んできました。荒木さんの代では新たに四大学合同連としての活動もスタート。2024年12月の「徳島おどりフェスタ」では鳴門教育大学の鳴響連、四国大学連、文理大学

連、徳島大学の雷連に螺旋連が加わり、四大学五連として初出演を果たし、学生連同士のつながりを深める、新しい一歩を踏み出しました。

さらに徳島の酒造メーカー「日新酒類株式会社」での職業体験をきっかけに利き酒全国大会へ出場。「徳島の日本酒文化を盛り上げたい」と日本酒サークルの立ち上げも計画中とのこと。「最近、研究室配属が決まり、石井キャンパスの三戸先生の研究室で昆虫の産業利用について研究を進めたいと思っています」。多面に挑戦する荒木さんの学生生活は、これからもますます充実していきそうです。



描いて、削って、歯の形を体得する 歯科医の第一歩「歯の解剖学」

歯の解剖学 対象：歯学部2年生
大学院医歯薬学研究所 歯学域 組織再生制御学分野教授
山本 朗仁 (やまもとあきひと)



オンデマンドでは穴埋め問題などで用語を習得。スケッチが苦手な学生はトレーシングペーパーを使って繰り返し描く練習をしたり、石膏棒から歯型彫刻を作る実習は工程を7段階に分けたステップ模型を参考に、凄腕技工士によるお手本動画を見ながら作成します。

歯科医師を目指す学生が、歯の形態や構造を正確に理解し、治療の際に患者へ正しく説明できるようになること、そして適切な修復物を作れるようになることを目的に行われているのが「歯の解剖学」です。

大人の歯は通常28本。上下左右それぞれ中切歯、側切歯、犬歯、

第1・第2小臼歯、第1・第2大臼歯があります。それらの歯がどんな形をしていて、なぜその形なのか。1本1本の特徴や機能を学び、遠心隅角や近心隅角といった歯の形状を表す用語などを学んでいきます。

基礎的な内容はオンデマンドで学習し、月曜の午後、実習が行われます。学生は歯のスケッチや歯型彫刻の作成を通して、微妙な凹凸や角度、曲線の違いを自らの手で感じ取り、歯の形を立体的に理解していくのですが、これがなかなか大変。特に石膏棒から歯型彫刻を削り出す作業は、美術や造形の才能がなければ合格点が取れないのでは?と思うほど、ポイントを押さえて精巧に作る必要があります。

しかし「上手下手よりも、学生が自分で考え、気づくことを大切にしている」という山本先生。「以前は学生が作った歯型彫刻に手を入れて、きれいに直していました。が、それではどこが違うのかを自分で考える機会を奪ってしまっています。今は手出しせず、作る過程を見守るようにしています。授業で上手にできないからといって、歯科医の仕事に苦手意識を持ってほしくないのです、少しでも上達すれば『すごく良くなったね』と声をかけています」。



歯型彫刻は、実際の歯のおよそ2倍のサイズで作成します。徳島大学病院の技工士・津村希望さんによる個別指導も行われました。上手に作るためのコツや、切り出しナイフの扱い方など、プロならではの技術を間近で見られる貴重な機会は、自分が作った模型との違いを理解し、正しく作成する上で大いに役立ちました。



サークル紹介

地域実践研究会NOROSHI



会長アピール

会長 **浅野 蘭** (あさのらん)
総合科学部 社会総合科学科 2年

私たちは「地域と学生を情報発信で繋ぐ」という理念のもと、2023年に活動をスタートしました。これまでに、徳島県内24自治体のうち半数の地域を訪れ、地域の魅力を学生からの視点で発信しています。「徳島には何も無い」と感じている方!NOROSHIで新しい発見をしてみませんか?



Instagram

年間の活動

- 4月 新入生歓迎活動
- 5月 五月祭出店
- 8月 合宿
- 9月 実践型インターンシップ サポーター(1月まで)
- 10月 上勝町で柚香収穫
- 11月 常三島祭出店

部活

- 毎月第2日曜日に新町川水際公園で行われるSunSunマーケットに出店中
- ミーティング：月曜日 ランチミーティング 水曜日 オンラインミーティング
- Instagram : tokudai_noroshi
- 入部方法：InstagramのDMから

男子ラクロス部



主将アピール

主将 **吉村 優志** (よむらゆうし)
理工学部 理工学科 3年

男子ラクロス部は全員が初心者から始まり全国を目指して活動している団体です。真剣にスポーツに取り組むことで得られる日々の充実感、切磋琢磨しあい多くの時間を共にすることにより生まれる家族のような仲間、高い目標を掲げているからこそこの人生最高レベルの達成感や思い出、すべてがこの大学の4年間で得られます。お待ちしております!



HP



Instagram

年間の活動

- 5月 スーパーカップ(全国規模の学生大会)
- 7月~9月 中四国学生ラクロスリーグ戦
- 10月 中四国学生ラクロス優勝決定戦
- 11月~ 全日本学生選手権
- 2月 つま恋スプリングカップ(全国規模の学生大会)

部活

- 火、金曜日 18:30~20:30、水曜日 6:30~8:00
土曜日 12:00~15:00、日曜日 9:00~12:00
- 場所：総合グラウンド
- HP : <https://tokushima-lax.com/>
- Instagram : tu_lax/
- 入部方法：4月~5月の新歓イベント、体験会に参加

放送研究会メガフェプス



部長アピール

部長 **川原 理紗子** (かわはらりさこ)
生物資源産業学部 生物資源産業学科 3年

放送研究会メガフェプスでは、ラジオ番組を自分たちでゼロから企画し、制作しています。ラジオが好き人や、アナウンス、編集、機材に興味がある人など大歓迎です!学祭での公開生放送や式典の司会、外部の方からいただいたナレーション業務などにも携わっています!まずはぜひ見学に来てみてください!



X



Instagram



番組公式 X

年間の活動

- 4月 式典の司会 新入生歓迎会
- 5月 五月祭(公開生放送)
- 8月 NHK全国大学放送コンテスト
- 11月 常三島祭(公開生放送)
- 3月 追いコン 式典の司会

部活

- 毎週木曜日 18:00~20:00 制作会議
- 毎週土曜日 11:00~13:00 FM徳島さんにて番組収録
- *FM徳島(80.7MHz)にて毎週金曜日 22:55~「大学生で行こう!」毎週土曜日 20:55~「フルーティーキッス」放送中
- X : @2012Megapheps(番組公式X) @megapheps_2nd(サークル公式X)
- Instagram : megapheps
- 入部方法：収録見学、SNSへ連絡を。

卓球部



部長アピール

部長 **大恵 健人** (おおえけんと)
総合科学部 社会総合科学科 3年

私たち卓球部は、自由参加でゆるく楽しめる部活です。「打ちたいときだけ来る」「遊びに来るだけ」でもOKで、実際にそんな部員もいます。一方で、本気で取り組みたい人にはしっかり練習できる環境もあります。マイペースでも、全力でも、自分に合った関わり方ができます。少しでも興味があれば気軽に来てください! ラケット不要、「来たい時に来る」スタイルで大歓迎です。



Instagram

年間の活動

- 4月 徳島リーグ(春)
- 5月 新入生歓迎会
- 6月 四国新人大会
- 7月 インカレ団体
- 8月 全国国公立大会
- 9月 自由参加の淡路島合宿/徳島リーグ(秋)
- 10月 インカレ個人
- 11月 四国学生選手権大会
- 12月 オール西日本大学選手権大会/忘年会
- 1月 四国選手権大会
- 3月 東京選手権大会

部活

- 火曜日 16:30~18:00、木曜日 15:00~19:00、金曜日 13:00~16:20、土曜日 15:00~18:00
- ※練習は自由参加、来たい時に来るスタイルでOK!
- 場所：第一体育館3階
- Instagram : tokushima_jttc
- 入部方法：練習見学、またはSNSへ連絡を。



国境を越えて広がる学びと絆

薬学部 薬学科 5年

Benjamin Tam Chee Keen (ベンジャミン タム チ キン) [マレーシア]

小学生の頃からアニメに興味があり、日本の文化に強く惹かれていました。中学生のときに日本語教室に通い始め、日本語を学ぶうちに「いつか日本で学びたい」という思いが自然と芽生えました。最初は日本語で会話することに大きなハードルを感じましたが、「間違えてもいいから話してみよう」と意識し、少しずつ自信をつけていきました。

高校卒業後に来日し、大阪大学の日本語日本文化教育センターで1年間の予備教育プログラムを受けました。当時はまさにコロナ禍で、外国での自宅待機、しかも一人暮らしで自転車もない生活は不安でした。しかし、同じ境遇の留学生仲間と支え合うことで乗り越えることができました。キャンパス近くの箕面大滝や勝尾寺で初めて紅葉を、京都の伏見稲荷大社で初めて雪を見て、日本の四季の魅力を肌で感じました。さらに様々な国から来た留学生との交流もあり、異文化理解が深まりました。

その後、徳島大学への進学が決まりました。徳島に到着した初日、駅のカウンターで阿波弁で話しかけられ、最初は戸惑いでしたが、「これこそが留学だ」と感じたのを今でも覚えています。

その後、薬学部に入學したところ、留学生の先輩がいない環境でしたが、自分で調べたり、先生方や友人に相談しながら様々なことに挑戦してきました。試験の厳しさや季節の寒暖差にも少しずつ慣れ、今では日本人学生と同じように発表できる自信を持てるようになりました。学業のほかに、軟式テニス部に参加したことも大きな経験です。

当初日本語での交流や練習が難しかったのですが、仲間と協力してプレーするなかで自然と交流が広がり、日本の文化や考え方を深く理解できました。最近では留学生の後輩も増え、自分の経験を共有しながらサポートする機会も増えました。困難を乗り越えた分だけ、日本で学ぶことの喜びを強く感じました。

3年生からは研究室に配属され、抗肥満薬の安全性や有効性を評価する研究に取り組みできました。このテーマは世界の公衆衛生につながっており、人々の健康維持に貢献できる可能性があることにやりがいを感じています。また、研究活動では英語と日本語の双方を活用できる場面が多く、言語力もさらに磨かれました。研究室メンバーとの交流も多く、忘年会や運動会など、

充実した時間を過ごしています。

そのほか大学主催のイベントで那賀町の古民家滞在を体験したことも印象に残っています。自然と人の温かさが調和する穏やかな場所、ゆずの収穫体験をはじめ、魚釣りや流しそうめん、乗馬、阿波晩茶工場の見学、お寺でのお祈り、パーベキュー、「はんごろし」作りなど、さまざまな地域文化に触れました。

将来は、これまでの学びと国際的な視点を活かし、新しい薬の研究開発に関わりたいと考えています。国や地域による医療アクセスの差をなくし、どこに住んでいても最新の薬を手に入れられる社会の実現を目指しています。



研究室の同期生と祖谷のかずら橋(筆者:下段中央)



大阪にいた時の留学生仲間と



那賀町での乗馬体験

先輩に続け

行政で働く歯科医師という選択肢



奥田 章子 (おくだ あきこ)

所属：厚生労働省医政局歯科保健課

略歴：2012年3月歯学部歯学科卒業

ます。しかし、診療を行わない形で、歯科保健医療に関わるという働き方があります。

私は、平成24年3月に歯学部歯学科を卒業後、徳島大学病院にて歯科医師臨床研修を行いました。研修歯科医の際には、研修プログラムにおいて様々な経験をさせていただいたこともあり、いずれの診療科も魅力的に感じ、進路に悩んでいました。そんな折、研修歯科医のタイムカードを置いてある一角に「厚生労働省医系技官」と書かれたパンフレットを発見しました。パンフレットによると、「医系技官とは、医師免許・歯科医師免許を持ち、専門知識を活かしてより多くの人々の健康を守るための仕組みを築く技術系行政官」とあり、行政の仕事とは？という疑問と興味を持ち、早速行動に移しました。医系技官の講演を聴きに行ったり、厚生労働省に見学に行ったりと、色々理解を深めるなかで、面白そうかも！と思いい、厚生労働省に入省しました。

入省して感じたやりがい

入省後、実際に面白かったか？



通勤の際に日比谷公園を散歩してリフレッシュしています

と聞かれれば、面白いですよ！と即答します。これまで、診療報酬

改定(新しい技術や材料の保険導入)、臨床研修の制度見直し、歯科疾患実態調査の実施、都道府県が行う事業内容の検討・見直しなどに関わってきました。いずれの業務も、基本的には省内外の関係者と相談・連携しながら進める業務がほとんどです。チーム医療という言葉が唱えられて久しいですが、行政においても、業務を進めるときには「チーム」で対応することが基本であり、大事なことだと日々感じています。

歯科医師でありながら、診療を行っていないことに後ろめたさを



数年前に徳島大学に呼んでいただきお話をしました

感じたこともありましたが、ある

時、広い意味では患者を診ることができるのだ、と思えるようになりました。行政で働く歯科医師は、制度を通じて国民の健康や医療のことを考え、アプローチすることができ、これは行政で働く歯科医師しかできず、大きなやりがいです。

メッセージ

皆さんには、行政で働く歯科医師という選択肢があることを知ってもらえたら嬉しいです。また、私自身は行政で働いていますが、行政だけでなく、いろいろな働き

「医系技官」 進路選択の岐路で出会った

こんにちは。突然ですが、皆さんは、歯科医師というどのような働き方を想像されるでしょうか。多くの方は、病院や診療所で働いたり、大学で教育や研究に従事したり...という働き方を想像されるのではないのでしょうか。実際、国のデータを見ると、歯科医師の約97%は病院や診療所で勤務し、医療に従事してい

NICHIA
Ever Researching for a Brighter World

身近なところでNICHIAの製品は活躍しています

日亜化学工業株式会社
徳島県阿南市上中町岡 491 番地
TEL:0884-22-2311

会社HP

第37回企画展
大学の遺跡からみた
徳島の歴史

―弥生集落と近世武家屋敷を中心に―

徳島大学の蔵本・常三島・新蔵の3キャンパスは、遺跡の上に立地しており、これまでの発掘調査において多くの発見がありました。

今回は、本学埋蔵文化財調査室がこれまでに行った調査研究成果について、弥生時代の集落と近世武家屋敷に焦点をあてて、ご紹介します。この機会にぜひご来場ください。

第37回企画展開催期間
2025年11月4日(火)～2026年2月27日(金)

【展示会場】徳島大学ガレリア新蔵展示室
徳島市新蔵町二丁目24番地 日亜会館1階
【開館時間】9時～17時
【休館日】2025年12月27日(土)～
2026年1月4日(日)
【問い合わせ】徳島大学法人運営部総務課広報室
TEL: 088-656-7646
E-mail: kohokakari@tokushima-u.ac.jp



Tokudai NEWS
徳大ニュース

本学初のネーミングライツを開始

本学では、教育研究環境の向上と施設活用を目的にネーミングライツ・パートナーを公募しており、この度、常三島地区2施設において2社を選定し、本学初のネーミングライツを2025年10月1日より開始しました。

■西日本高速道路株式会社
(代表取締役社長：芝村善治)

対象施設：情報センター1院生棟2階
202情報処理実習室1

愛称：「NEXCOLLABO」(ネクソコラボ)

期間：2025年10月1日～
2028年9月30日

■新日本電工株式会社
(代表取締役社長：青木泰)

対象施設：附属図書館本館1階
ラーニング commons

愛称：「新日本電工ラーニング commons」

期間：2025年10月1日～
2028年9月30日

今後、本学とネーミングライツ・パートナー企業は、愛称が多岐の利用者に親しまれ、定着するように協力するとともに、各施設での学びや経験が、学生の成長の糧となることを期待しています。

り、社会で活躍するための礎となることを期待しています。

「全国大学の地域貢献度調査総合ランキング」で国立大学1位、全国3位にランクイン

日本経済新聞社が全国777国公私立大学を対象に実施した「地域貢献度調査」の総合ランキングにおいて、本学は、国立大学で全国第1位、全大学では4回連続で第3位となりました。(「日経グローバルNo.519」掲載)

今後、徳島の発展に寄与し、地域の皆さまに愛され頼られる大学を目指し、地方創生の更なる推進に向けて大学一丸となって取り組んでまいります。

全国徳島県人会連合会との連携協定締結から1周年

本学は、2024年8月5日に全国徳島県人会連合会(以下、県人会)と連携協定を締結し、今年度で1周年を迎えました。連携事業の一環として、昨年度

は「徳島プライド醸成塾 県人会×学生」、今年度は共同授業「関係人口とつくる徳島のこれから」を開催。学生が県人会員と意見交換を行うとともに、全国各地で開催される県人会へ学長、副学長はじめ研究者も参加し、本学の取組を発信しております。

徳島県人会は、徳島県出身者だけでなく、徳島大学に在学していた方等、徳島にゆかりのある方も参加することができ、幅広い交流の場となっています。

本学は今後も徳島県人会との連携を深め、徳島県の発展に貢献できるよう努めてまいります。



左から、河村学長、全国徳島県人会連合会 本出良一会長(2024年8月)



全国徳島県人会
連合会HP

令和7年秋の生存者叙勲を次の方が受章されました。心からお祝いを申し上げます。

○瑞宝中綬章
林弘三(名誉教授)
教育研究功労

林弘三氏は、生物学分野において、病原性原生動物の感染に対する防御免疫の研究をはじめ、感染原虫に対する細胞傷害性リンパ球の解析、また、原生動物の特異な細胞分裂周期について分析し、細胞質分裂を調節する因子を発見するなど重要な業績を挙げるとともに、卓越した学識と誠実な態度をもって学生や若手研究者の指導・教育にあたり、この分野の発展に大きく貢献されました。

○瑞宝双光章

川田直伸(元病院診療放射線技師長)
診療放射線業務功労

川田直伸氏は、永年にわたり一貫して放射線検査業務、放射線検査業務の管理及び放射線技師教育に携わり、その豊富な経験と知識をもって、徳島大学病院放射線部の管理運営のみならず、県内外の診療放射線技師の能力向上に大いに貢献されました。

MIMURA

【油圧シリンダ専門メーカー】

ミムラテッコウ

アイツ
真面目は見えない
見えないアイツを
宿らせろ

新卒社員



募集中!!

建機用ジャッキシリンダ

シリンダ内径|130mm 使用圧力|20.6MPa
ロッド外径|100mm 最高出力|伸び側274KN
ストローク|590mm 縮み側77KN



オリジナル短編動画
「ミムラテッコウ」
スペシャルサイト



MIMURA
TRAINING STORY
ものづくりの出発点



オリジナル短編動画
「ミムラテッコウ」
誕生秘話



インターンシップ
受付はこちら
マイナビ2027



当社は香川県さぬき市で『油圧シリンダ』を専門に作っている会社です

MIMURA 三村鉄工株式会社
〒769-2105 香川県さぬき市末371番地6 TEL:087-894-7788(代)

YouTube



Website

